

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

人間の行動を律する道徳規範が不可欠 (渋沢 栄一)

1. 「日本の資本主義の父」と称される渋沢栄一。生涯を通じてさまざまな事業を起こし、また、それらの事業を継続して発展させ、企業者としての活動に精力を傾けてきた。渋沢が関わった幾多の事業群には、大きく二つの特色がある。第一は、西洋の新しい技術や知識をベースにした事業が非常に多いということ、第二は、近代社会の基盤形成に関わる事業を通して、日本の経済社会全体の発展を目指したことである。
2. システムが社会の公益のために機能するためには、人間の行動を律する道徳規範が不可欠である。そして、渋沢は早くから道徳を欠いた資本主義のシステムが優勢劣敗を助長するものに随し、社会を豊かで、平等なものとはしないことを見抜いていた。それ故渋沢は、当時の日本人にはなじみが深かった「論語」をビジネスパーソンに向けて、その道徳規範を示したのだ。
3. かつてドラッカーは、渋沢の思想と行動に「CSR (企業の社会的責任)」の先駆を見出しそのことを称賛した。渋沢の思想と行動を理解することは、現在のビジネスパーソンにとって、企業の社会的存在価値を高めるための必須教材になるでしょう。 (参考:「週刊ダイヤモンド」2019年5月11日号)

幹部への活きた言葉

自然界と知性高める和歌

千 玄室 (茶道裏千家前家元)

1. 「古今和歌集」の中に「やまとうたは人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける」(紀貫之)。つまり「和歌は人間の心をもとにして多くの言の葉になったもの」という意味のことが書かれている。人は自身の置かれたその時の状況に様々な思いがある。それを目に見えるものや耳に聞こえる音に託して言葉に表してきた。
2. どんな人にも自然と共生する心があるものだが、いまはほとんどの人が自然との共生をしていないし、またしようとする思いすら持っていない。上手下手は別として、感じた思いを五七五七七の三十一文字に詠んでみることで、文明社会の便利さとは別の自然界に生きるということが多少でもできるのではないかと思う。五七五の俳句も難しいが、いずれも自己の自然観を得るとともに知性を高めることができるであろう。

(参考:「致知」:2019年6月号)

人事・労務について

若手を登用 (井上礼之・ダイキン工業会長)

1. 総人件費を大幅に増やせない中で、若い人をどう処遇するか。従来以上に早期登用をしないと人材が逃げていくでしょう。課長になるのは今は最も若くて35歳前後。これを30歳前後にするつもりです。早期登用で賃金面でも処遇ができます。これまで若いうちは差をつけられませんでした。今後は、研修制度を充実させ、遅咲きの人にも配慮します。
2. 2020年4月までに定年を60歳から65歳までに延ばします。それに合わせた勤務や雇用の形態を採用していきます。AIやIoTなどスペシャリストは3年や5年と期間を決め、高い報酬で来てもらっています。AI技術者は自社でも育成しますが、データ解析の専門家の処遇は例外として運用しています。

(参考:「日経ビジネス」2019年4月22日号)

古典に学ぶ

真正の利殖法

(解説) 実業というものはいかに考えてよいものか。もちろん世の中の商売、工業が利殖を図るものに相違ない。もし商工業にして物を増殖するの効能がなかったならば、すなわち商工業は無意味になる。それゆえに真正の利殖は仁義道徳に基づかなければ、決して永続するものではない。

(参考:渋沢栄一「論議と算盤」:国書刊行会)